

愛知サークル3月例会報告

2021年3月14日（日） 桜花学園大学 参加：8名

I 文学教材の追求

1. 「たけのこ ぐん」（2年）解釈

- ・一連をきちんと読むことが大事だ。作者は何に感動したのか。「せのび」をして、土を割ったことである。「割る」は、瞬間動詞である。その場にはないと「割った」とは言えない。
- ・一連の「ぐん」と三連の「ぐん」の関連性は、一連をきちんと読むことによって分かってくる。
- ・学び合う会では「ああ、そうだったのか。」という教材解釈の感動体験をさせたい。

2. 「ぼくらのもの」（5年）解釈

- ・「それだけはぼくらのもの ぼくらのものだ。」と断定しているので「ぼくら」ってだれかを、考えるとよい。自分のことだけでなく、自分と同世代に言えることなのだ。それを理解するためには、作者の与田準一さんがいつの時代の人かをあらかじめ知っておく必要がある。
- ・問題として、「ぼくらって、だれ」「ぼくらのものって、なに。」などだ。扉の詩ではあるが、年度当初の教材としては難しいか。

3. 「みみずのたいそう」（1年）記録・音声

- ・「もつれてのびて」をいきなり動作化させるのは無理がある。子どもは、「わからん」「知らん」と素直に反応している。身近な縄跳びのような具体物を使って、「もつれる」が「絡まった状態になる」のをイメージさせてから動作化させてやるとよい。そして、それを最終的に言葉で表現させる。
- ・一連はみみずで、二連は人間が主体とする解釈には疑問が残る。

4. 「世界一美しいぼくの村」（5・6年）記録と映像

- ・本時の解決する問題は「たった一日で『なつかしいにおい』がする理由」である。「大喜び」と「なつかしい」は連動している。「大喜び」の内容を考えるためにどう「楔」を打つか。そこで言葉の意味を使っていく必要がある。

II 「表現教材」の追求

【表現】

1. 「おむすびころりん」（1年）

- ・声ははっきりしており、ひざが使えている。また、相手の動きを見て動いているのがよい。
- ・ピアノの音が大きく、速い。
- ・セリフにはないが、おむすびが転がる1回目2回目3回目の違いを明確にするとよい。変えようとしているが、形式的になっている。意味づけをしてやることが大事である。解釈をもってやることが大事。

2. 「スイミー」（1年）

- ・この時期によくやった。
- ・フロアの余白の使い方をもっと明快にしたい。「余白とかたまり」がポイント。
- ・大魚をどうやって見せるかは工夫がいる。

【図工】

1. 「歌う顔」（1年） 2. 「10歳の自分」（4年）